久留米教区　宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌

親鸞聖人入門講座

テキスト

― 誕　生 ―

私たちの宗旨は浄土真宗です

【本尊】　…阿弥陀如来
【正依の経典】…仏説無量寿経（大経）
※三部経　仏説観無量寿経（観経）
仏説阿弥陀経（小経）
【宗祖】　…親鸞聖人
【宗祖の主著】…顕浄土真実教行証文類（教行信証）
【宗派名】　…真宗大谷派
【本山】　…真宗本廟（東本願寺）

※親鸞聖人の伝記には、不明確な部分が多く、ことがらによっては諸説あるものもあります。本テキストでは、『浄土の真宗』、『親鸞　生涯と教え』、『親鸞聖人伝絵　ー御伝鈔に学ぶー』(以上、東本願寺出版部)、『まんが宗祖親鸞聖人』(難波別院)、『親鸞聖人　御絵伝を読み解く』(法蔵館)を参考にしました。

誕　生

親鸞聖人は①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の承安（じょうあん）３年（1173）に、藤原氏の子孫で日野有範（ひのありのり）の子として誕生したと伝えられています。母は源氏の流れをくむ吉光女（きっこうにょ）とされます。四人の弟がいましたが、いずれも※1延暦寺（えんりゃくじ）や※2三井寺（みいでら）で出家したといわれています。

聖人が生まれたのは、貴族中心の①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿から、武家社会の鎌倉時代への転換期でした。聖人誕生の十数年前には※3保元（ほうげん）の乱（1156）や平治（へいじ）の乱（1160）など、皇族や貴族、武士たちが骨肉の争いを繰り返し、やがて平清盛を中心とする平氏一族が実権を握りました。しかし不満を抱く人々は源氏を中心として平氏と争い、その結果、平氏は滅亡

して源頼朝によって鎌倉幕府が成立しました。

人間同士の争いだけでなく、※4養和（ようわ）元年（1181）の大飢饉をはじめ大地震や大火事、台風や洪水、疫病の流行などにより大勢のいのちが失われていきました。まさにこの世の地獄のような光景でした。

そのころ、②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿が人々にさらなる不安を与えていました。③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿が※5入滅（にゅうめつ）されたのち、１５００年を過ぎると末法（まっぽう）の時代に入るといわれ、仏の教えを正しく理解する者も実践する者もいなくなり、不幸や災いが人々を苦しめるという思想です。そのため人々の間には、死んだのちの世、来世をたのむ④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿が広がりはじめました。

親鸞聖人は、そのような激流のさなかに誕生されたのです。

◇補　注

※1 滋賀県大津市の比叡山にある天台宗の総本山。

※2 滋賀県大津市にある天台宗寺門派の総本山。

※3 皇位継承問題などの朝廷の内紛に、平氏と源氏の武力が加わった政変。

※4 鴨長明の『方丈記』には京都での死者を 4 万 2300 人と記し、「築地のつら、道のほとりに、飢え死ぬもののたぐひ、数も知らず」と伝えている。

※5 煩悩の炎が吹き消された状態、またその境地に入ること。宗教的に目覚めた人が亡くなることも意味する。

親鸞聖人の誕生

親鸞聖人が誕生された場所は、藤原氏の流れをくむ日野一族の菩提寺であった法界寺（京都市伏見区）の近くであったとされます。

父親は、日野有範という朝廷に仕える役人で、母親は源氏の流れをくむ吉光女であったと伝えられています。幼名は「松若丸」とも「十八公麿」ともいわれています。

末法思想

仏教では釈尊（お釈迦さま）が入滅されてからの一定の期間を正法・像法・末法の三つに区切って表現します。

我が国では永承７年（1052）が末法元年に当たるとされていましたが、親鸞聖人は元仁元年（1224）を末法に入ってすでに683年と、『教行信証』に述べておられます。

- 正法…釈尊入滅後500年（1千年とも）。正しい教（教え）・正しい行（実践）・正しい証（さとり）のある時代。
- 像法…その後の１千年。証がすたれ、教・行のある時代。
- 末法…その後の１万年。行・証がすたれ、教のみの時代。（以後、教もなくなる法滅）

当時の浄土信仰

平安時代の浄土信仰は、救いのない現世を見かぎり、阿弥陀仏にすがって死後の極楽往生を願うということでした。当時の浄土信仰は、末法思想の広がりによって、いっそう盛んになりました。

☆話し合いのポイント例

- 生まれた意義と生きる喜びを見つけよう
  （宗祖生誕 800 年スローガン）
- 出会いによって人生は変わる
- 赤ちゃんポスト
- デザイナーベビー
- 男に生まれて、女に生まれて
- 子どもをつくる、子どもを授かる
- どんな時代に自分は生まれたのか

メモ

『御絵伝』について

初幅（初段）

第二図　青蓮院門内　　第一図　青蓮院御門

親鸞聖人は幼くしてご両親とお別れになり、伯父である日野範綱に育てられました。そして聖人が9歳の春、出家のため青蓮院をお訪ねになられました。

この場面は、幼い聖人が青蓮院に入っていかれたところです。門の外には聖人が乗ってこられた御所車があり、これは聖人の身分が高いことを表しています。この御所車を乗り捨てることで、これまでの身分や煩悩の生活を捨てることが表されていて、また満開の桜によって、今が春の季節だと知ることができます。

聖人が誕生されてから9歳までの生活というものが、この場面に象徴されています。

『御伝鈔』とは、正式には『本願寺聖人伝絵』のことをいいます。親鸞聖人の曾孫である本願寺第３代の覚如上人によって作られた、聖人のご生涯を絵詞にした絵巻物です。その図絵だけをまとめたものを『御絵伝』、詞書だけのものを『御伝鈔』といいます。

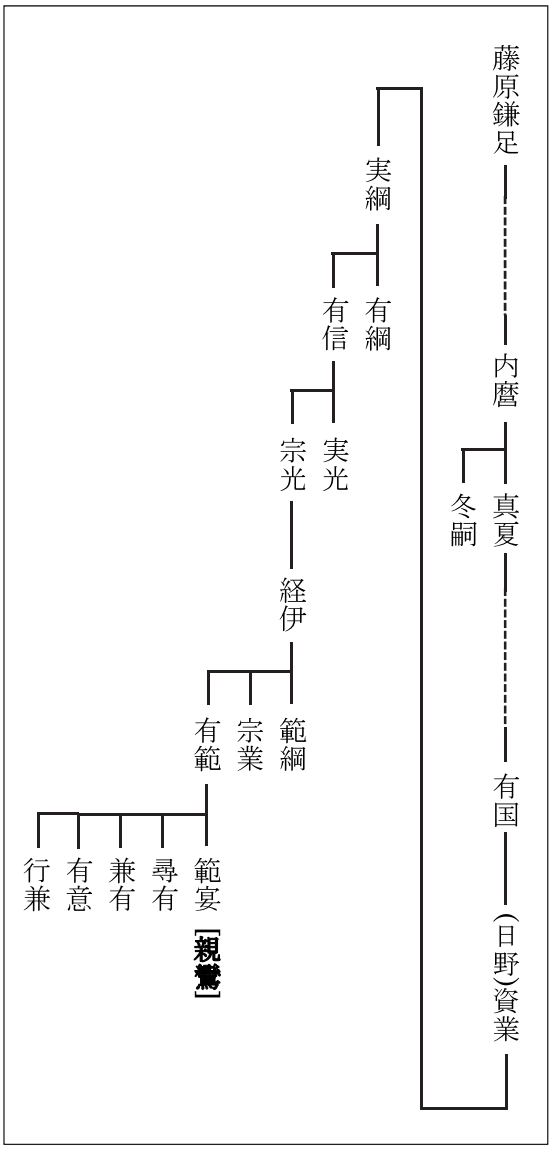
報恩講では、内陣余間に四幅（または二幅）の『御絵伝』が掛けられ、『御伝鈔』が拝読されてきました。掛軸になった『御絵伝』は、下から上へと順々に宗祖の御生涯がわかりやすく描かれています。

親鸞聖人の時代背景

1052 年（永承 7）	末法の世に入る
1156 年（保元元）	保元の乱
1160 年（平治元）	平治の乱
1167 年（仁安 2）	平清盛、太政大臣となる
1173 年（承安 3）	親鸞聖人誕生（1）
1175 年（安元元）	京都大風、悪病流行
1176 年（安元 2）	京都大地震
1177 年（治承元）	京都大火
1180 年（治承 4）	親鸞の母、吉光女逝去（8）
	平氏、東大寺・興福寺を焼く
1181 年（養和元）	親鸞、出家（9）
	養和の大飢饉
1182 年（寿永元）	妻、恵信尼誕生
1185 年（文治元）	平氏滅亡
1191 年（建久 2）	親鸞、磯長の太子廟に参籠（19）
1192 年（建久 3）	源頼朝、征夷大将軍となる
1198 年（建久 9）	源空、『選択集』撰述
1201 年（建仁元）	親鸞、六角堂に参籠（29）
1203 年（建仁 3）	北条時政、執権となる
1204 年（元久元）	源空、「七箇条制誡」をつくる
	親鸞、「僧綽空」と署名（32）
1205 年（元久 2）	親鸞、『選択集』を書写
	夢告により名を「善信」と改める
1207 年（承元元）	親鸞、越後へ流罪（35）
1221 年（承久 3）	承久の乱
1262 年（弘長 2）	親鸞、入滅（90）

※（）の数字は親鸞の年齢

『日野一流系図』より



※『日野一流系図』: 本願寺第８代蓮如人第 10 男・実悟の著作。1541(天文 10)年の奥書がある。

親鸞聖人ゆかりの地紹介

◇法界寺

京都市と宇治市の境にある伏見区日野の地は、親鸞聖人生誕の地とされ、９歳で得度するまでの幼少時代を過ごされた場所とも伝えられています。その日野の地に建つのが法界寺です。現在は薬師堂と阿弥陀堂の両堂が残るのみですが、かつて藤原氏北家にあたる日野家の山荘があり、永承６年（1051）、日野資業によって、薬師如来を本尊とする本堂薬師堂をはじめ、観音堂など多くの堂宇が建立されました。

その資業が、薬師如来を作らせた際、その胎内に、藤原家宗が慈覚大師円仁により授けられた最澄作の小さな薬師如来像を納めたことから、安産、授乳のご利益があるとして、今も女性から厚く信仰されています。

幼きころの親鸞聖人が最初にご縁を結ばれたと伝えられるのが、法界寺の阿弥陀如来です。宇治の平等院鳳凰堂の本尊と最も近い定朝様式の仏像は、蓮華座の上で上品上生印（阿弥陀印）を結び、透かし彫りの飛天光背を背に座られ、非常に穏やかな表情。平安時代の阿弥陀仏を代表する円満豊麗な様子を今に伝えています。

法界寺は現在は真言宗のお寺ですが、元は天台宗であったことから阿弥陀堂は常行堂形式となっています。幼き親鸞聖人が日夜合掌礼拝されていたであろう阿弥陀堂で、その面影を辿ってみてはいかがでしょうか。

所在地／京都市伏見区日野西大道町１９